

ディリー・ジーザス・ニュース #252

火曜日…テストと指導の日

イエスの権威が疑問視される

MK 11. 27-33 (対訳: MT 21. 23-27; LK 20. 1-8)

27 彼らは再びエルサレムに着いた。イエスが神殿の境内を歩き回り、^L民衆に教え、福音を宣べ伝えておられると、^M祭司長、律法学者、長老たちがみもとにやって來た。

28 彼らは言った。 「何の権威によってこれらのことをするのですか。だれがあなたにそんなことをする権威を与えたのですか。」

29 イエスは答えられた。 「^{MT}もまたあなたに一つ質問します。答えてください。そうすれば、私が何の権威によってこれらのことを行っているのかをあなたに告げましょう。 30 ヨハネの^{浸水}習慣はどこから來たのですか? ^Mそれは天から來たものでどうか、それとも人間起源でどうか?」

「「私に教えてくれと命じる！」

31 彼らは互いに論じ合って言った。 「もし『天から』と言えば、『では、なぜ彼を信じなかつたのか』と言われるだろう。 32 しかし、『人から』と言えば、^{民衆}が恐れるだろう。彼らは皆、^{私たち}を石で打ち殺すだろう。彼らはヨハネを預言者だと確信しているからだ。」

33 そこで彼らはイエスに答えた。 「わたしたちは知りません。」

イエスはこう言いました。 「「わたしも何の権威によってこれらのことをするのか、あなたたちには言いません。」

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マーク = ^M、ルカ = ^L、ヨハネ = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、赤いイタリック体はイエスの言葉を示します。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト

位置	エルサレムの神殿の庭
タイムライン	4月上旬 (39ヶ月目)
イエスの生涯の文脈	第8段階：受難週
	C. 火曜日：テストと指導の日
タイトル	2. イエスの権威が疑問視される

コメント：

ディリー・ジーザス・ニュース #252

火曜日の早朝、イエスが神殿の境内に到着するとすぐに、ユダヤ人指導者による尋問が始まりました。それが異端審問とならなかつたのは、イエスの言葉に聞き入ろうと集まつた大勢の群衆の存在だけでした。彼らはイエスの話を聞くのが大好きでした。

日曜日にメシアとして民衆の喝采を受け、月曜日にイエスが権威を示した後、火曜日に行われたすべての試練において、イエスの権威の本質が中心的な問題となつたのは当然のことです。その日は、2つの関連する疑問から始まりました。

(1) 「何の権威によってこれらのことをするのですか？」

(2) 「誰があなたにこれをする権限を与えたのですか？」

イエスは自らの質問で答えることで、自らの権威を表明しました。当時の文化では、このような場で質問することは、情報を求める行為ではなく、教えるための手段、つまり権威の表明でした。指導者たちはイエスにこれらの質問をすることで、イエスに権威を委ねようとしていました。イエスが質問という形で答えたことで、前日に神殿を清めることで彼らに対して行使した権威は維持されました。

イエスの質問は見事でした。指導者たちを、集団として神の権威に反抗し始めた時点へと直接引き戻したのです。イエスは、浸礼者ヨハネの浸礼の背後にある権威について尋ねました。それは、これらの指導者たちによって認可されたものではなく、彼らの権威から生じたものではありませんでした。では、ヨハネの浸礼の権威はどこから来たのでしょうか？神から来たものでしょうか、それとも人間から来たものでしょうか？

ヨハネは、神がメシアについて証しするために彼を召し、メシアがそれを通してイスラエルに啓示されるように、バプテスマを受けるように命じたと証言しました（ヨハネ1:19-34）。指導者たちはヨハネにバプテスマを授ける権威について直接尋ねましたが、ヨハネはそれが神から直接与えられたものであることをはっきりと伝えました。

彼らはこの事実を一度も認めず、神がヨハネを通して指導者として彼らを叱責し、対峙させているという真実を直視していませんでした。イエスは彼らを、神と彼らとの間に依然として障壁として存在していたこの最初の問題へと連れ戻しました。この問題への対処を拒否したからといって、その緊急性が消えたわけではなく、むしろ時とともに深刻化しました。

指導者たちの返答は実に示唆に富むものだった。彼らは神の権威を主張する立場を最終的に検討するのではなく、真実そのものではなく、自らの選択が社会に及ぼす影響に基づいて論じ合つた。「もし我々がAと言えば、人々はBを行うだろう。もし我々がCを選べば、人々はDを行うだろう。」

彼らの論理はすべて、自分たちの決断が政治的な影響を与えることに関するものであり、ヨハネを通して、そして今やイエスを通して彼らに突きつけられた神の権威の真理の本質的な意味についてではありませんでした。彼らは自分たちの答えがもたらすであろうどちらの結果にも直面したくなかったため、「ヨハネの権威がどこから来たのか、私たちには分からぬ」と言って、事態を回避しようとした。彼らは真実を直視し、対処することを拒否したのです。

デイリー・ジーザス・ニュース #252

そこでイエスは、彼らの質問にも答えないと言いました。彼らは真理に向き合うことを拒み続けていたので、ヨハネが既に答えた同じ質問に答えても何の役にも立ちません。イエスは彼らの不従順を強めることはしませんでした。彼らが望むなら、それに立ち向かうようにと、イエスは彼らに任せました。しかし彼らはそうしませんでした。

このようにしてイエスは彼らに対する権威を保ち、聞くつもりもない質問をした彼らの不誠実さを、彼らに認めさせました。それは全くの偽善でした。

応用：

イエスは以前のたとえ話の中で、もし私たちが人生において真理への従順の実を一つも得ていないなら、私たちが持っている真理も奪われると教えられました。この出会いは、この原則が実際にどのように作用するかを如実に示しました。指導者たちは真理と向き合うことを拒んだため、与えられた真理の知識を保持する能力を失ってしまったのです。

不従順は、肥料と水を与えられた雑草がさらに繁殖するように、さらなる不従順を生み出します。過去の真理の啓示に従うことは、より大きな啓示という収穫と、より多くの従順の機会をもたらします。だからこそ、罪は常に神から離れ、勢いを増していくのです。

あなたが認めることが拒否してきた真実の側面はありますか？

それに対処するまで、神との関係において前進することはできません。否定は、イエスに従うというあなたの進歩を阻みます。

今日、あなたが正直に向き合う必要がある真実は何ですか？

イエスに助けを求めるなら、イエスの慈悲、慰め、そして恵みがすべてあなたを待っています。イエスは一時的な苦しみを乗り越えさせ、それを完全な永遠の喜びに変えてください。さあ、進んでください！